

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月10日

上場会社名 株式会社大戸屋ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2705 URL https://www.ootoya.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 蔵人 賢樹
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 澄川 浩太 (TEL) 045(577)0357
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	12,030	△35.5	△3,115	—	△2,832	—	△5,017	—
2020年3月期第3四半期	18,661	△3.7	△217	—	△156	—	△188	—

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期△5,030百万円(—%) 2020年3月期第3四半期 △151百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△692.73	—
2020年3月期第3四半期	△26.08	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	5,939	△1,863	△32.5
2020年3月期	8,816	3,347	37.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 △1,927百万円 2020年3月期 3,279百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年3月期の配当につきましては、現在未定です。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,978	△26.9	△2,873	—	△2,731	—	△4,866	—	△671.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期3Q	7,246,800株	2020年3月期	7,246,800株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	7,441株	2020年3月期	1,706株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期3Q	7,243,611株	2020年3月期3Q	7,241,356株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、2020年4月の緊急事態宣言発令をはじめとして新型コロナウイルスの感染拡大により大幅に悪化した後、同年6月の宣言解除以降、緩やかながら回復局面に転じました。しかしながら、新型コロナウイルス感染者数の増加が再び顕著となった11月下旬以降、外出機会の減少をはじめとする消費マインドの低下及び雇用環境の悪化などを要因として、個人消費は年末にかけて急激に停滞するに至りました。

外食産業におきましては、緊急事態宣言解除後も、新型コロナウイルス感染回避に伴う外出機会の減少、行政の要請に基づく営業時間の短縮、ソーシャルディスタンス（社会的距離）確保のための客席数の削減など様々な負の影響が継続しております。特に、新型コロナウイルスの感染拡大第3波が顕在化した後、「Go To Eat」キャンペーンの見直しや各自治体からの飲食店に対する時短営業要請などにより、例年に比して外食需要が大きく減少し、厳しい状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、従業員のマスク着用や店内設備の定期的なアルコール消毒、ソーシャルディスタンスの確保を目的とした客席数調整など、お客様に安心して店舗をご利用頂ける環境づくりに引き続き努めております。

他方、2020年11月4日開催の臨時株主総会において刷新された新たな経営体制の下、ブランド力の更なる向上及び商品・メニュー戦略の立て直しによる客数・売上高の回復、並びにコロナグループとの協働による調達コストの削減をはじめとする収益性の改善に鋭意取り組んでおります。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 12,030百万円（前年同期比35.5%減）、営業損失 3,115百万円（前年同期は同217百万円）、経常損失 2,832百万円（前年同期は同156百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は5,017百万円（前年同期は同188百万円）となりました。なお、当第3四半期連結会計期間においては、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により売上高は十分な回復に至っていないものの、損益面においては、収益性強化に向けた種々の取り組みを通じて、第2四半期連結会計期間の営業損失1,229百万円に比して、同441百万円と大幅に縮小しました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

① 国内直営事業

国内直営事業においては、6月には、新型コロナウイルス影響下においてグランドメニュー商品数の絞り込みにより商品提供時間の短縮を実現した一方、8月には、イートイン客数の回復傾向に伴い地域や立地ごとのニーズに合わせて商品数や商品ラインナップを区分けしたパターン別グランドメニューの導入、テイクアウトでおかずやお総菜を選べて価格もお得な「大戸屋お惣菜セット」や、売価600円台のお得なお弁当シリーズを展開した他、10月上旬より広島産牡蠣を用いた「かきフライ定食」をはじめとする「かきフェア」を実施いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、売上高・利益ともに前第3四半期連結累計期間を下回ることとなりました。

店舗展開につきましては、新規出店はありませんでした。国内直営事業でありました2店舗（新宿イーストサイドスクエア店、三宮センタープラザ店）を国内フランチャイズ事業とした一方、国内フランチャイズ事業でありました6店舗（祖師ヶ谷大蔵駅前店、経堂コルティ店、ららぽーとTOKYOBAY店、イオンモール八千代緑が丘店、コクーンシティ店、BiViつくば店）を国内直営事業としました。また、14店舗（イトーヨーカドー錦町店、橋本店、ポンテポルタ店、イオンタウン川西多田店、札幌白石店、松戸駅前店、相模原若松店、田端アスカタワー店、梅田東店、イオンモール柏店、東京汐留ビルディング店、調布北口店、六本木一丁目店、原宿神宮前店）を閉店いたしました。

これにより、当第3四半期連結会計期間末における国内直営事業に係る稼働店舗数は「大戸屋ごはん処」133店舗、新業態4店舗となりました。

以上の結果、国内直営事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は6,816百万円（前年同期比34.0%減）、営業損失は1,932百万円（前年同期は同412百万円）となりました。

② 国内フランチャイズ事業

国内フランチャイズ事業においても、国内直営事業同様の取り組みを実施いたしましたが、新型コロナウイルスの影響は大きく、売上高・利益ともに前第3四半期連結累計期間を下回ることとなりました。

店舗展開につきましては、「大戸屋ごはん処」3店舗（上越妙高駅前店、日立シーマークスクエア店、湯吉郎店）の新規出店を行いました。また、国内フランチャイズ事業でありました6店舗（祖師ヶ谷大蔵駅前店、経堂コルティ店、ららぽーとTOKYOBAY店、イオンモール八千代緑が丘店、コクーンシティ店、BiViつくば店）を国内直営事業とした一方、国内直営事業でありました2店舗（新宿イーストサイドスクエア店、三宮センタープラザ店）を国内フランチャイズ事業としました。また、16店舗（金沢松村店、広島西条店、青葉台店、松戸八ヶ崎店、美浜ニューポート店、佐倉染井野店、稲毛ワンズモール店、イオンモール天童店、豊崎店、茅ヶ崎北口駅前店、大船店、横浜西口南幸店、イオンモール札幌苗穂店、筑紫野美しが丘店、小松沖店、富士吉田店）を閉店いたしました。

これにより、当第3四半期連結会計期間末における国内フランチャイズ事業に係る稼働店舗数は「大戸屋ごはん処」183店舗となりました。

以上の結果、国内フランチャイズ事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は3,640百万円（前年同期比36.6%減）、営業利益は68百万円（前年同期比89.2%減）となりました。

③ 海外直営事業

海外直営事業においては、3月より新型コロナウイルス拡大の影響を強く受けました。特に米国ニューヨークにおきましては、非常事態宣言により全店舗で店内営業が禁止され、デリバリー・テイクアウトのみの営業を余儀なくされるなど、売上高・利益ともに前第3四半期連結累計期間を大きく下回ることとなりました。

当第3四半期連結会計期間末における海外直営事業に係る稼働店舗数15店舗（香港大戸屋有限公司が香港において5店舗、OOTOYA ASIA PACIFIC PTE. LTD. がシンガポール共和国において3店舗、AMERICA OOTOYA INC. が米国ニューヨーク州において4店舗、M OOTOYA (THAILAND) CO., LTD. がタイ王国において1店舗、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市において2店舗）を展開しております。なお、当第3四半期連結会計期間末より、店舗数につきましては国内事業に合わせて9月末時点より12月末時点へ変更しております。

以上の結果、海外直営事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は1,337百万円（前年同期比39.2%減）、営業損失は321百万円（前年同期は営業利益9百万円）となりました。

④ 海外フランチャイズ事業

海外フランチャイズ事業においても、3月より新型コロナウイルス拡大の影響を強く受けました。地域により影響の程度の差はあるものの、店舗休業・営業時間の短縮を行った影響もあり、売上高・利益ともに前第3四半期連結累計期間を大きく下回ることとなりました。

当第3四半期連結会計期間末における海外フランチャイズ事業に係る稼働店舗数101店舗（タイ王国において47店舗、台湾において41店舗、インドネシア共和国において13店舗）を展開しております。なお、当第3四半期連結会計期間末より、店舗数につきましては国内事業に合わせて9月末時点より12月末時点へ変更しております。

以上の結果、海外フランチャイズ事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は121百万円（前年同期比27.7%減）、営業利益は20百万円（同74.8%減）となりました。

⑤ その他

その他は、タイ王国におけるプライベートブランド商品の輸入・販売事業であり、当第3四半期連結会計期間末現在、THREE FOREST (THAILAND) CO., LTD. がプライベートブランド商品の輸入・販売をタイ王国で行っております。

以上の結果、その他の当第3四半期連結累計期間の売上高は114百万円（外部顧客に対する売上高。前年同期比50.0%減）、営業損失7百万円（前年同期は営業利益22百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は2,729百万円（前連結会計年度末比23.8%減）、固定資産は3,210百万円（同38.7%減）であり、資産合計では5,939百万円（同32.6%減）となりました。これは主として、現金及び預金並びに店舗等の有形固定資産が減少したためであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は5,356百万円（前連結会計年度末比71.8%増）、固定負債は2,446百万円（同4.1%増）であり、負債合計では7,803百万円（同42.7%増）となりました。これは主として、短期借入金が増加したためであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払により利益剰余金が減少した結果、前連結会計年度末比5,211百万円減少し1,863百万円の債務超過となりました。

当社では、債務超過の解消を目的として、2021年2月18日開催の臨時株主総会決議を経た上で、当社の親会社である株式会社コロワイドに対する優先株式（30億円）の発行を予定しており、当該優先株式の払込が完了した際には債務超過を解消する見込であることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年11月10日に公表いたしました2021年3月期通期の連結業績予想より変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の動向等によって変更が必要と判断した場合には、業績の推移等を慎重に検討した上で、適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,005,630	1,207,715
売掛金	900,185	878,045
原材料及び貯蔵品	79,849	62,728
その他	602,739	615,650
貸倒引当金	△6,535	△34,519
流動資産合計	3,581,869	2,729,620
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,906,486	732,425
工具、器具及び備品（純額）	798,844	420,440
その他（純額）	84,794	82,755
有形固定資産合計	2,790,125	1,235,621
無形固定資産		
のれん	35,980	—
その他	34,351	115,602
無形固定資産合計	70,332	115,602
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,850,255	1,767,285
その他	534,320	102,064
貸倒引当金	△10,356	△10,356
投資その他の資産合計	2,374,220	1,858,993
固定資産合計	5,234,677	3,210,218
資産合計	8,816,547	5,939,838

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	902,922	757,362
短期借入金	600,000	3,000,000
1年内返済予定の長期借入金	240,000	240,000
リース債務	70,687	59,924
資産除去債務	59,874	41,642
未払金	723,120	620,410
未払法人税等	88,375	23,322
賞与引当金	69,580	46,380
株主優待引当金	—	82,350
店舗閉鎖損失引当金	33,604	17,416
その他	329,862	467,879
流動負債合計	3,118,028	5,356,689
固定負債		
長期借入金	720,000	766,152
リース債務	87,564	43,691
退職給付に係る負債	485,276	497,816
資産除去債務	471,309	750,611
その他	586,607	388,470
固定負債合計	2,350,757	2,446,742
負債合計	5,468,786	7,803,431
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,522,796	1,522,796
資本剰余金	1,440,967	1,440,967
利益剰余金	234,565	△4,964,454
自己株式	△289	△289
株主資本合計	3,198,039	△2,000,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△152	221
為替換算調整勘定	105,758	97,835
退職給付に係る調整累計額	△24,291	△24,738
その他の包括利益累計額合計	81,314	73,317
非支配株主持分	68,406	64,069
純資産合計	3,347,761	△1,863,593
負債純資産合計	8,816,547	5,939,838

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	18,661,747	12,030,734
売上原価	8,139,461	5,478,088
売上総利益	10,522,286	6,552,645
販売費及び一般管理費	10,740,063	9,667,882
営業損失(△)	△217,776	△3,115,236
営業外収益		
受取利息	996	549
受取配当金	121	130
協賛金収入	60,186	48,018
助成金収入	—	278,422
その他	20,184	20,072
営業外収益合計	81,488	347,194
営業外費用		
支払利息	7,517	25,120
為替差損	9,537	15,142
譲渡制限付株式報酬償却	—	13,784
その他	3,207	10,465
営業外費用合計	20,263	64,512
経常損失(△)	△156,551	△2,832,555
特別利益		
固定資産売却益	33	15
新株予約権戻入益	73	—
受取立退料	—	1,122
特別利益合計	107	1,138
特別損失		
固定資産除却損	11,946	5,656
減損損失	4,843	1,736,978
店舗閉鎖損失	6,061	8,290
店舗閉鎖損失引当金繰入額	5,548	2,707
特別損失合計	28,399	1,753,632
税金等調整前四半期純損失(△)	△184,843	△4,585,049
法人税等	△10,582	431,153
四半期純損失(△)	△174,261	△5,016,202
非支配株主に帰属する四半期純利益	14,581	1,689
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△188,842	△5,017,892

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△174,261	△5,016,202
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	405	373
為替換算調整勘定	13,730	△13,950
退職給付に係る調整額	8,401	△447
その他の包括利益合計	22,537	△14,024
四半期包括利益	△151,723	△5,030,227
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△168,141	△5,025,889
非支配株主に係る四半期包括利益	16,417	△4,337

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(資産除去債務の見積りの変更)

第2四半期連結会計期間において、店舗の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等として計上していた資産除去債務について、店舗の解体撤去費用の新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。

この見積りの変更による増加額269,083千円を変更前の資産除去債務に加算しております。

なお、変更に伴って計上した有形固定資産の一部について減損損失を計上したため、当第3四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失が232,178千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	国内 直営事業	国内フラン チャイズ 事業	海外 直営事業	海外フラン チャイズ 事業	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	10,319,796	5,742,897	2,201,296	168,040	18,432,031	229,716	18,661,747
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	4,336	4,336
計	10,319,796	5,742,897	2,201,296	168,040	18,432,031	234,053	18,666,084
セグメント利益又は損失(△)	△412,381	632,430	9,593	80,346	309,988	22,044	332,032

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、タイ王国におけるプライベートブランド商品の輸入・販売事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	309,988
「その他」の区分の利益	22,044
セグメント間取引消去	19,975
全社費用(注)	△569,785
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△217,776

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	国内 直営事業	国内フラン チャイズ 事業	海外 直営事業	海外フラン チャイズ 事業	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	6,816,032	3,640,655	1,337,630	121,484	11,915,804	114,929	12,030,734
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	1,952	1,952
計	6,816,032	3,640,655	1,337,630	121,484	11,915,804	116,882	12,032,686
セグメント利益又は損失(△)	△1,932,559	68,375	△321,407	20,269	△2,165,322	△7,866	2,173,189

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、タイ王国におけるプライベートブランド商品の輸入・販売事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△2,165,322
「その他」の区分の利益	△7,866
セグメント間取引消去	17,646
全社費用(注)	△959,693
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△3,115,236

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内直営事業」セグメントにおいて1,551,103千円、「海外直営事業」セグメントにおいて148,101千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当第3四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年4月の緊急事態宣言発令に伴う店舗休業、行政の要請に基づく営業時間の短縮、外出機会の減少及びソーシャルディスタンス（社会的距離）確保のための客席数の削減などにより、売上高が大きく減少しました。

また、第2四半期連結会計期間において、減損会計における個別店舗の業績見通しに関し、新型コロナウイルスの感染拡大以前の店舗業績を基礎としつつ、楽観的要素を排除した結果、1,736百万円の減損損失を計上すると共に、繰延税金資産の回収可能性に関し、当期の業績見通しを踏まえた精査を行い、繰延税金資産379百万円全額の取り崩し等を実施いたしました。

この結果、当社グループは、当第3四半期連結累計期間において、営業損失3,115百万円、経常損失2,832百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失5,017百万円を計上し、1,863百万円の債務超過となったことにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。しかしながら、店舗運営・商品政策の改善による売上高の回復、コロワイドグループとのシナジーによる調達コストの低減、本部費をはじめとする経営効率の改善などを通じて、収益性の向上を図っていくことに加え、2021年2月18日開催の臨時株主総会決議を経た上で、当社の親会社である株式会社コロワイドに対する優先株式（30億円）の発行を予定しており、当該優先株式の払込が完了した際には当連結会計年度中に債務超過を解消する見込であることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。